

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医保健看護学科

職階 教授

氏名 植竹勝治

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

専門分野の知識の修得に限らず、大学卒業生として相応しいリテラシー及び社会人として必要なコンピテンシーを身につけることができるようにすることが教育の責任と考える。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
生命倫理・動物福祉	獣医保健看護学科	必修	1	78
動物行動学	獣医学科	必修	3	145
人と動物の関係学（分担）	獣医保健看護学科	必修	1	78
動物看護学概論（分担）	獣医保健看護学科	必修	1	78
動物人間共生論（分担）	動物応用科学科	必修	1	132
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	18
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	7
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	7
動物共生科学特別演習Ⅰ－Ⅰ	動物応用科学専攻	必修	1	2
動物共生科学特別演習Ⅰ－Ⅱ	動物応用科学専攻	必修	2	4
動物共生科学特別研究Ⅰ－Ⅰ	動物応用科学専攻	必修	1	2
動物共生科学特別研究Ⅰ－Ⅱ	動物応用科学専攻	必修	2	4

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

- ・自ら課題を見つける。
- ・課題に積極果敢に取り組む。
- ・動物の行動特性や基本的ニーズについて正しく知る。
- ・フィールドワークを大切にする。
- ・実利を常に意識する。
- ・経験を通じて成長する。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

- ・授業振り返り小テスト（複数回）の実施
- ・ライブと遠隔授業の併用
- ・オンデマンド教材の活用
- ・実用的教材（図説）の配布
- ・メール等による学生からの問い合わせ随時受付のアナウンス
- ・居室ドアの開放
- ・学位論文の冊子及び電子ファイルの公開

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

グループワークの活用、文献調査結果・研究プロトコール・研究成果の口頭発表と質疑応答

(2) ICTの教育活用

有

専門分野に係る公開動画の活用、LMS（学理、Azamoodle）を利用した試験とレポート提出

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

学生の興味を引く題材について、できるだけ視聴覚教材を提供して理解を深めるようにしている。

(2) 学生の理解度の把握

B

小テストや中間・期末テストを授業内で実施している。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

授業教材の1週間前からの事前配布と授業動画の配信により、予習復習ができるようにしている。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

授業の中休み時間および授業後に講義室で質問等を受け付けると共に、メールでの質問等に対して即応するようにしている。

(5) 双方向授業への工夫

B

小テストおよび中間・期末テストについて、採点後に特に正答率が低かった問題について解説をするようにしている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

担当科目（動物行動学）に関連した獣医師国家試験の過去問を配布するとともに、当該分野における出題傾向の解説を授業内で実施している。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

スライドに見難いものがあるとの指摘に対応して、スライドの図表を改めて見直した。双方向性が無いとの指摘に対しては、上述の通り、中間・期末テストの後に解説をするようにした。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

取り組みの結果については、今後配信される2024年度後期授業評価アンケート結果で確認したい。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

授業評価アンケート結果を受けてPDCAサイクルを通じて改善に取り組んでいきたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

引き続き授業内の小テストや中間・期末テストで、学生の理解度を小まめに確認しながら授業を進めるようにする。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

昨年度（2023年度）の授業評価アンケートに当該取組に対するコメントは特に無かったが、目標到達度および理解度に関する設問に対する回答はおおむね良好であった。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

- ・ 大学主催のFD研修会には毎回参加

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

- ・ PBLに取り組む。
- ・ 卒業研究の内容について学生に（全員でなくても）学外で発表する機会を設ける。
- ・ 関連分野への就職率を上げる。
- ・ 卒業後も大学や研究室と関係を持てるようにする。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

- ・ シラバス
- ・ 履修ガイド
- ・ ゼミ資料
- ・ 学会等のプログラム及び講演要旨集